

7:10【主】は再び、アハズに告げてこう仰せられた。7:11「あなたの神、【主】から、しるしを求めよ。よみの深み、あるいは、上の高いところから。」7:12するとアハズは言った。「私は求めません。【主】を試みません。」7:13そこでイザヤは言った。「さあ、聞け。ダビデの家よ。あなたがたは、人々を煩わすのは小さなこととし、私の神までも煩わすのか。7:14それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

## はじめに

クリスマスは、教会の暦で非常に大切な季節です。

また、小売業でも大切な季節です。

12月の売上が年間売上の4割にのぼる企業もあります。

多くの人はクリスマス準備に奔走します。

今この瞬間も、世界中の無数の人々がクリスマス準備をしています。

英国では、クリスマスイブにならないとクリスマスの準備をしない男性もいます。

前日になってあわてて、奥さんの気に入りそうな香水か何かを買います。

一方、私の母のように、一年前から翌年のクリスマスの準備をする人もいます。

英国では、クリスマスが終わるとクリスマスグッズが半額以下になります。

私の母は、堅実なスコットランド人女性です。我が家のクリスマスグッズやクリスマスプレゼントはほとんどが1月のセールで買われたものでした。

母は買ったものを大きなスーツケースに入れて、屋根裏に隠していました。

私があることを知ったのは、十代になってからです。

さて、クリスマスは聖書の神にとっても大切でした。それで、神はその準備を大昔から始められました。

今朝私たちが注目するのは、その準備の数々についてです。その準備については、預言によって示されています。旧約聖書には、クリスマスに関する預言がたくさんあります。今日は、その中のひとつをしっかりと検証しましょう。

救い主の来臨に関する最初の約束は、聖書の最初のほう、創世記 3:15 に登場します。

ユダヤ人のヘブル語学者によると、これは約 7000 年前のことです。

では、創世記 3:13-15 を読みましょう。

3:13そこで、神である【主】は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。」女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」3:14神である【主】は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。3:15わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

この箇所を読んでも、やがてイエスがお生まれになることについて神が語られていると明確にはわかりません。

では、14-15 節を詳しく検証しましょう。

この神の約束にはふたつの側面があります。

1. 悪魔とその手下に対する約束
2. 女の種と女から生まれる男に関する約束

神は、エバの子孫と悪魔の子孫または手下との間には常に戦いがあると約束なさいました。

神は、悪魔がエバの子孫のかかとを傷つけるが、それは致命傷ではないとおっしゃいます。

一方、悪魔は頭を踏み砕かれるので、こちらは致命傷となります。

これは、イエスの死と復活、そしてサタンの破滅に関する預言です。しかし同時に、女の種からイエスがお生まれになることもこの預言に含まれています。  
通常は、男の種が女の胎に入ることで胎児が育ち始めます。  
しかし、ここでは、「女の種(子孫)」と記されています。  
それが実現するには、神が奇跡によって種を植えなくてはなりません。  
ですから、これが未来の処女受胎の最初の兆候です。実現する約 7000 年前にそのことが示されました。

処女から生まれる男性がサタンを破滅させます。その人は傷を負いますが、致命傷ではありません。  
創世記 3:15 から、ユダヤ教のトーラーを読む人々に、クリスマスの準備のことが聖書で啓示されたことがわかります。  
モーセは詳しいことを理解していなかったかもしれませんが、私たちは聖書全体を知り、歴史上の人物イエスについても知っているのです、この個所の意味がすぐにわかります。  
では、イザヤ書 7:14 を読みましょう。

7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

預言者イザヤは、イエスのお生まれになる約 6000 年前にこの言葉を記しました。  
神は、イザヤをとおして語られました。それは、最初のクリスマスがどういうものか正しいイメージを私たちに与えるためです。  
イザヤは、イエスのご降誕はしるしだと言いました。  
この預言に関連する個所がルカ 2:10-12 にあります。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

神は人々の注目を集めたり、ご自身のメッセージを人類に伝えるために「しるし」を用いられます。ヨハネの福音書に登場する奇跡にもしるしが伴いました。

ヨハネ 2:11 イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

イザヤは、7:14 で、「主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。」と言います。  
では、イエスのご降誕は何のしるしでしょう。

### 1. 神の御力のしるし

イザヤは、「処女」が身ごもって男の子を生むと預言しました。  
イザヤは、「見よ。処女がみごもっている。」と言います。  
これは、自然を超越した誕生に関する預言です。  
最初のクリスマスは、神の御力があらわされるべき時でした。  
この預言から約 6000 年後に神が与えられるしるしは、神の御力を示すのです。  
普通の方法で、男女が性交し、男の種から子どもが生まれるのも奇跡です。  
種(精子)は小さくて、肉眼では見えません。  
そして、約 9 カ月間をかけて胎内で胎児が成長し、やっと生まれます。

こうして生まれた赤ん坊は、唯一無二の存在です。  
聖書は、私たちが恐ろしいほどの奇しいわざによって造られたと語りますが、そのとおりです。  
しかし、このケースでは神ご自身が種を植えられるのです。  
処女受胎は神秘です。そして、神の御力のしるしです。

クリスマスを祝う時、この不思議な預言が成就したことを祝うわけです。

処女受胎は、クリスマスの物語に不可欠な要素です。

イエスが、男の種から通常の方法でお生まれになったのなら、罪の性質を持って生まれるので、イエスの死は何も成し遂げられません。

ローマ 5:12 そういふわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、—それというのも全人類が罪を犯したからです。

イエスは、天を離れて、100%聖なるお方のままでこの世に来られる必要がありました。

罪の罰が死であることは、聖書で一貫して示されている神のみこころです。

イエスが死なれるまでは、神は動物の死をとおして罪の赦しを与えておられました。

動物が、罪を犯した人の身代わりに死ぬのです。

処女からお生まれになった理由は、イエスが 100%聖なるままでおられるためです。そのようにして、イエスは私たちの身代わりに罪の代価を払うことができになりました。つまり、私たちが受けるべき罪の罰をお受けになられたのです。

イエスが処女受胎という超自然的な方法でこの世に来られなければ、これを成し遂げることはできませんでした。

マタイ 1:18-25

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりはまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。1:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。1:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。1:23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。) 1:24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、1:25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

ですから、ひとつめのしるしは、神の御力のしるしです。処女受胎をもたらす御力、そして、世の救い主が処女の胎内で通常の妊娠のように育つことを可能とする御力です。

## 2. 神の愛のしるし

イザヤは、処女の生む子は、「インマヌエル」と呼ばれると語ります。

「インマヌエル」とは「神がともにおられる」という意味です。

これは、神のみこころが人の姿に表されるという約束です。

旧約聖書をよく読むと、神が人の姿であられた事例が記録されています。

創世記 3:8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。

神は、園の中を歩き、アダムとエバに話しかけられました。

その後、創世記 18:1-3 では、神はアブラハムにあらわれます。

創世記 18:1-3

18:1 【主】はマムレの檜の木の下で、アブラハムに現れた。彼は日の暑いころ、天幕の入口にすわっていた。18:2 彼が目を見て見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。彼は、見るなり、彼らを迎えるために天幕の入口から走って行き、地にひれ伏して礼をした。18:3 そして言った。「ご主人。お気に召すなら、どうか、あなたのしもべのところを素通りなさないでください。」

そして、ヨシュア記 5:13-15 では、神はヨシュアの前にあらわれ、主の軍の将と名乗られます。

5:13 さて、ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行って、言った。「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」5:14 すると彼は言った。「いや、わたしは【主】の軍の将として、今、来たのだ。」そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」5:15 すると、【主】の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」そこで、ヨシュアはそのようにした。

アブラハムとヨシュアの場合、神はあらわれてすぐにどこかに姿を消されます。ここで考えなければならないのは、クリスマスにイエスがあらわれたことの独自性についてです。旧約聖書でイエスがあらわれた事例と何が違っているでしょう。クリスマスにイエスがあらわれた時、イエスは実際に生身の人間になられたということです。これを神学用語で「受肉」と言います。神が私たちと同じように血と肉のある存在になられたという意味です。少し考えると、世界の創造主がそうなったというのは一大事だったことがわかります。新約聖書でもっとも親しまれている個所のひとつにヨハネ 3:16 があります。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神はご自身のお造りになった人類を深く愛されていたので、人間になるという一大事を進んでなさいました。神は私たちを深く愛されたので、人の姿になることを良しとされたのです。それは、私たちの罪の借りを支払うためでした。

ピリピ 2:5-8

2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、2:8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

聖書教師ジェームス・モンゴメリ・ボイスは次のように語ります。  
「イエスは、私たちの霊の誕生を与えるために、人間としての誕生を耐えられた。  
私たちがたくさん住まいを受けるために、馬小屋においでくださった。  
私たちが天の父を得るために、地上の母を得られた。  
私たちが自由にされるために、人間の性質に縛られた。  
私たちがご自身の栄光を与えるために、栄光を自ら離れられた。  
私たちが富むために、貧しくなられた。  
私たちがサタンから救いだされるために、ヘロデに追われた。  
これは、役割の逆転である。神の犠牲により、私たちに益を計るため。」  
(クリスマスのキリストより)

### 3. 神のまことのしるし

聖書の神についてひとつ確かなことがあります。  
それは、神が約束をなされると、ご自身のときに必ず忠実に約束を実現なさることです。  
クリスマスは、神のまことのしるしです。  
神がまことなお方であることは、神のご性質の不可欠要素です。

民数記 23:19 神は人間ではなく、偽りを言うことがない。人の子ではなく、悔いることがない。神は言われたことを、なさらないだろうか。約束されたことを成し遂げられないだろうか。

神のご誠実は、成就された約束をとおして知ることができます。

旧約聖書からもうひとつ例を挙げておきましょう。

創世記 12:1-3 で、神はアブラハムにいくつかの約束をなさいました。

12:1【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

約束された事柄は次のとおりです。

1. **わたしはあなたを大いなる国民とする。**ユダヤ人は歴史上あらゆる困難に見舞われてきましたが、神はこの約束を守っておられます。何千年も続く迫害で、多くのユダヤ人が神の選民であること以外に何の理由もなく殺されてきたにもかかわらずです。ユダヤ人は今も大いなる国民であり続けます。世界中に離散しているユダヤ人もいますが、神はご自身の約束を守ってこられました。
2. **あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。**  
イスラエルの国およびユダヤ民族は、世界の祝福となっています。  
イスラエルが 50 年以上前に独立国家となって以来、世界の祝福となっている例を挙げると、あまりにも多くて挙げ切れません。  
しかし、直近のできごとを挙げるなら、シリアの内戦で負傷した子どもたちは、イスラエルで治療を受け、命を救われています。  
発展途上国は、飢餓対策にイスラエルの専門知識を使っています。  
干ばつで苦しむ国々も、イスラエルから取り入れた革新的技術により、農作物を育てています。  
また、イスラエルの発明に感謝している人たちはたくさんいます。  
車椅子に乗る人々、身体障害者、火傷を負った人、ガン患者、心的外傷後ストレス障害患者、糖尿病患者、アルツハイマー病患者などがその一例です。  
イスラエルの災害支援は世界一と言われます。ハイチ大地震後の対応について、世界から称賛を受けています。  
これらのことをニュースで見るとはあまりありませんが、これは神がアブラハムに対する約束を忠実に守っておられるしるしです。  
ユダヤ人は常に、世界の祝福となっています。
3. **あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。**  
ここで具体例は挙げませんが、イスラエルを支援する個人や国家を祝福するという約束を神が守っておられることを示す堅い証拠が今日存在します。
4. **地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。**  
今日、イエス・キリストをとおして、世界はまさに祝福を受けています。  
クリスマスがなければ、私たちに救い、赦し、私たちの罰を受け、永遠のいのちにふさわしい体を与えられて永遠に生きられるようにしてくださるイエスはおられなかったでしょう。  
これこそ、最大の祝福です。そして、これは神がまことなお方であられるおかげです。  
今日、人類に与えられた最大の祝福は、イエス・キリストです。  
イエスはクリスマスにこの世に来られましたが、今も生きておられます。死からよみがえられたからです。  
神のまことを示す究極の証拠がイエス・キリストであることは、明らかです。

では、クリスマスに関するイザヤの預言から、私たちの日常生活に役立つ教えは何でしょう。

1. イエスの最初の来臨に関するすべての預言は、100%正確に成就しました。ですから、私たちは確信を持って、イエスの再臨を待ち望むことができます。これは、神のご計画の中で次に起こる大きな出来事です。

クリスマスは、過去の出来事です。イエスの再臨は未来に起こることです。

現代人は、クリスマスの話には問題なく耳を傾けられます。

何の脅威も感じない昔の出来事だからです。

一方、イエスの再臨のしるしは、この世にとって悩ましいものです。それは、脅威を感じる現実だからです。私たちは、再臨前のしるしの時代に生きています。

イザヤがイエスの最初の来臨に関するしるしについて預言したように、イエスも、再臨のしるしについて預言なさいました。

では、イエスが語られたしるしについて手短かに見ていきましょう。

マタイ 24:3-14 を読みましょう。

マタイ 24:3-14

24:3 イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりにには、どんな前兆があるのでしょうか。」24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。24:10 また、そのときは、人々が大ぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。24:11 また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。24:12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

### 1. 欺きは、イエスの再臨のしるしのひとつである。

偽預言者や、自分をイエスだと名乗る人物が出てきて、多くの人々を欺きます。現代には、欺きが世界中にはびこっています。

多くの人々は、クリスチャンのムーブメントだと主張するが実はそうではないようなものにだまされています。そのような運動は、違った福音を伝えているわけです。

今日、世間には私腹を肥やした偽預言者たちがいます。

繁栄の福音には注意してください。このようなムーブメントにかかわる人々は、献金をすれば金銭的な報いが与えられると言いますが、そのような言葉に騙されて献金しないよう気を付けてください。このメッセージ原稿に、繁栄の福音に関する説明を貼り付けておきますので、ぜひお読みください。

これは、イエスが語られたしるしのひとつです。この欺きに留意してください。

英語版ウィキペディアより

繁栄の神学(繁栄の福音、成功の福音、富と健康の福音などとも呼ばれる)は、一部のクリスチャンが持つ宗教的信念である。彼らは、経済的祝福と健康が常に神のみこころであると信じ、信仰、ポジティブな発言、宗教献金が経済的な富をもたらすと考えている。繁栄の神学は、聖書を神と人間との契約書とみなし、人が神を信じるなら、神が安定と富をもたらすと考える。

繁栄の神学では、個人が力をいただくことの重要性が強調され、神の民が幸福であることが神のみこころであると提唱する。贖罪(神との和解)は、病や貧困からの解放も含むと解釈する。そして、信仰によって呪いが解かれると考える。これは、献金に加え、実現した状態をイメージすること、そしてポジティブな発言によって成し遂げられると信じている。

1950年代に癒しのリバイバルが起こったところに、米国における繁栄の神学が最初に顕著となったが、19世紀に始まった光明思想がこの神学の源流と考えられている。のちに、信仰の言葉ムーブメントや1980年代のテレビ伝道によって、広く知られることとなった。1990年代から2000年代にかけて、米国のペンテコステ運動やカリスマ運動の主要な指導者たちもこの教えを取り入れたことで、世界中に広まった。繁栄の福音の発展に寄与した主な指導者たちに、以下が挙げられる。E.W.ケニヨン、オーラル・ロバーツ、T.L.オズボーン、ジョエル・オースティーン、クレフロ・ダラー、ケネス・コブランド、アイク博士、ケネス・ヘーゲン

繁栄の神学は、無責任で、偶像礼拝を助長し、聖書の教えに反するものとして、ペンテコステ派やカリスマ派を含むキリスト教の諸教団から批判を受けている。

2. **戦争と戦争のうわさ**—今現在、北朝鮮に関する戦争のうわさがあります。また、実際に多くの戦争や紛争が世界中で起きています。これはしるしです。

3. **世界各地における飢餓、疫病、地震**

現在、何らかの被害を与える規模の地震が年間500件起こります。また、大きな被害を与える地震も年間100件起きています。また、死者を出し、壊滅的な被害を与えるような地震も年間20件起きます。

1950年と比較すると、その増加率は400%です。

疾病管理も大きな問題となりつつありますし、飢餓も増えています。

4. **不法**—犯罪は私たちの身近で起こっています。

世界のどこでもあります。日本は世界でも治安のよい国で、人口あたりの殺人発生率がもっとも低いとされていますが、それでも年間500人が殺されます。その多くは、テレビなどのメディアで取り上げられることもありません。

5. **すべての国民へのあかしとして、福音が全世界に宣べ伝えられる。**—これは、私たちクリスチャンがこれらのしるしの一端を担える場所です。私たちは神の恵みという純粋な福音を人々のもとに携えなければなりません。簡単ではありませんが、努力しなくてはなりません。

クリスマスは、大阪の人々に福音を分かち合うすばらしい機会です。もし12人の人が12月20日のクリスマス・キャロリングに参加してくれれば、あらゆる国の人が集まる私たちのグループに誰かが気づいてくれるかもしれません。

しかし、50人が参加したら、必ず気づいてもらえます。

クリスマスに信仰を分かち合うことで、私たち自身が、イエスの再臨のしるしの一端を担うことができるのです。

2. **神が聖書に則って私たちにまことを尽くしてくださいという励ましが、ひとりひとりのクリスチャンに与えられています。**

イエスをとおして、神と一対一のつながりをもっているなら、神が私たちに個人的に語られたことばを守ってくださいと100%確信できます。

これは、聖書を読むうえでの最大の励みです。

私がOICに来て以来、聖書の年間通読にチャレンジした人たちがいます。

これは、大きな訓練であり、たましいにとって豊かな祝福です。

神は、ご自身のみことばをとおして語られ、ご自身の約束をもって私たちを励ましてくださいます。

2018年、大きく祝福されたいなら、年間聖書通読にチャレンジしてみてもはどうでしょう。

神のみことばを読む中で、神が語り、励ましてくださるでしょう。

今年すでにチャレンジした人も、もう一度やってみてください。違う通読スケジュールを使ってみるのもよいでしょう。

私は、2018年に詩篇をすべて読んでひとつひとつの詩篇について熟考しようと計画しています。これは、来年の説教シリーズの準備でもあります。

もう年間通読をしてしまった人は、いっしょにこれをやってみませんか。

読めない事情のある人、読むのが難しい人は、音声版聖書を聞くのもよいです。

聖書を一冊読み切るのに2-3年かかるかもしれませんが、あきらめないでください。

神にこの世の繁栄を求めず、心の中に与えられるたましいの祝福を求めましょう。

2018年、私たちが神のみことばに親しめますように。そして、神が私たちを祝福してくださいますように。